

コンポーネントプロダクツ



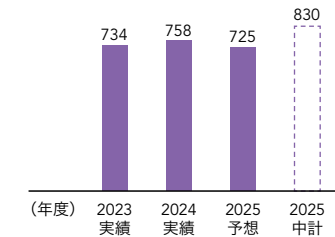
執行役員 コンポーネント
プロダクツ事業部長
井上 崇

事業部長メッセージ

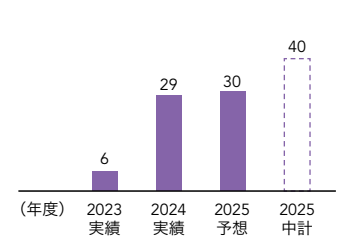
センシング、AI、通信、出力をコア技術としたOKIのプロダクトを企画・製造しており、グローバルに展開する自社販路を通して国内外のお客様へ広く販売しています。

プリンター事業は、複合機などの開発・生産を担う合併会社「ETRIA（エトリア）」に新たにOKIが参画し、中期経営計画2025における構造改革が完了します。今後は、その効果の具現化によって、中長期での収益安定化を目指します。ビジネスコミュニケーション事業は、売上高は回復基調にあり、構造改革効果も重なって収益力が大きく改善してきています。今後さらに、成長領域と位置づけているエッジデバイス事業の拡大を図ることで、事業全体の収益力を維持・強化し、持続可能な安定事業化を目指します。

売上高（億円）



営業利益（億円）



事業概要

プリンターおよびビジネスコミュニケーションは、成熟市場であり、規模は緩やかな縮小傾向にありますが、OKIを含む主要各社の市場シェアは比較的安定して推移しています。このような市場環境を踏まえ、構造改革による収益力の改善を進めていきます。

エッジデバイスは、インフラモニタリング市場の世界的な拡大が予測されており、OKIの特長である省電力、無線技術、耐環境性を活かした製品ラインアップで、国内外での販売拡大を進めていきます。



プリンター



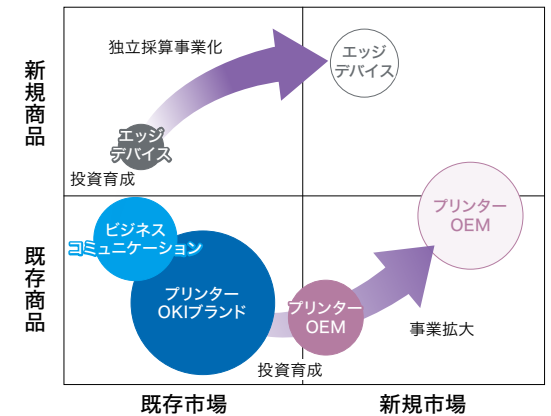
ビジネスホン



エッジデバイス

事業方針

中期経営計画2025では、主軸となる既存2事業領域（右図「プリンターOKIブランド」「ビジネスコミュニケーション」）での商品ラインアップの見直し、人員再配置、開発投資の効率化による構造改革を推進し、利益の安定化を図ります。そのうえで、注力領域に対しては積極投資を行い、エッジデバイス事業およびプリンターOEM事業を育成していきます。既存と新規の両輪で持続可能な安定事業化を図ると同時に、新たな可能性となる新領域での事業成長を進めていきます。



事業環境の認識

機会

- ・ 今後市場が縮小していく成熟市場（売上規模縮小）で各社の開発投資が重荷となる中、OKIが強みとするプリンターエンジンのOEMビジネス機会が拡大
- ・ インフラ老朽化、自然災害激甚化、環境保全といった社会課題を解決するインフラモニタリングやカーボンニュートラルなどの環境貢献商品へのニーズの拡大

脅威

- ・ プリンターおよびビジネスコミュニケーション市場の成熟化による規模縮小の進行
- ・ 環境、セキュリティ、人権などの規制強化による対応コスト負担増大

事業の強み、課題

強み

- ・ ETRIA参画による規模の経済効果を活かした開発投資の効率化および調達コスト削減
- ・ プリンター事業が持つグローバル販売拠点のアセット
- ・ プリンター開発で培われたLED、タフネス、省スペースを実現する技術力
- ・ ビジネスホンや無線端末の開発で培われた通信技術、および周波数解析を応用したセンサー技術

課題への対応

- ・ プリンターおよびビジネスコミュニケーション事業の構造改革継続による収益力向上
- ・ 新たなOEMビジネスパートナーの獲得
- ・ 強みのある技術を活かした特長ある商品開発による環境保全、災害対策などの新市場への参入

コンポーネントプロダクツ

中期経営計画2025の進捗と今後に向けて

■プリンター

プリンターは、タフネス・省スペース・シンプル構造（メンテナンスのしやすさ）を特長としたOKIの強みを武器に、流通・物流・薬剤などの印刷需要の高い市場をターゲットにしていますが、ETRIAへの参画による設計・製造の統合効果を最大限に活かし、コスト低減に加え、製品ラインアップの増強と販売チャネルの改革によって販売拡大を狙います。

詳細は、以下プレスリリースをご参照ください。
複合機等の開発・生産を担う合併会社「ETRIA（エトリア）」に新たにOKIが参画

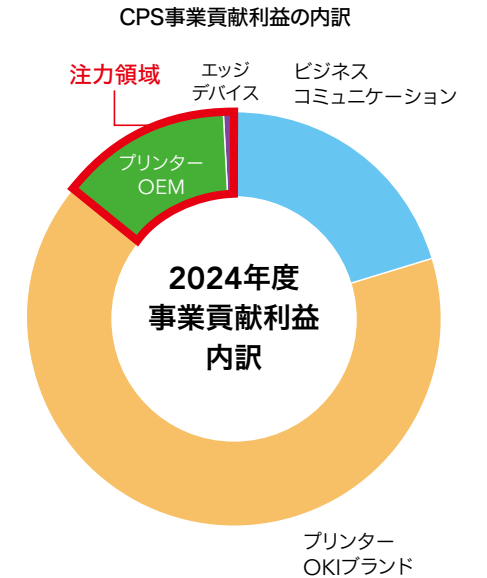
■ビジネスコミュニケーション

ビジネスコミュニケーションは、Web会議ツールが多用されるオフィス環境から、コミュニケーションが不可欠な現場や顧客接点向けのコミュニケーションへと機能を強化することで、新たなニーズの掘り起こしと用途拡大を図ります。商品ラインアップの見直しを行い、固定費のスリム化を進めることで、収益力向上を目指します。

■エッジデバイス

エッジデバイスは、電源レス・省電力・耐環境技術を強みとした製品開発を進めてきましたが、海外での実証実験のフィードバックをもとに、現地ニーズに即した価値や機能の向上を図り、海外販売の拡大を目指します。また、海外で培った知見やノウハウをもとに、国内市場での製品開発にも活かしていきます。

さらに、投資を拡大し、事業の次の柱へと育てていきます。鉄道をはじめ、道路、電力などの社会を支えるインフラの安全性確保や、河川の氾濫や土砂崩れなどの災害から人命を守るための遠隔モニタリング機能の提供など、社会に役立つ商品をつくり出し、安心して暮らせる社会の実現に貢献していきます。



TOPICS 価値創造マテリアリティ | 安心・便利な社会インフラ／地球環境の保全

インフラモニタリング市場は、老朽化や自然災害の増加により、世界的に市場拡大が見込まれており、CAGR10%以上で規模拡大が進むと予測されています。エッジデバイス事業の主力商品であるゼロエネルギーIoTシリーズは、小型の太陽光発電パネルで高い発電効率を実現し、さらに長期間稼働する省電力機能を特長としており、地球環境の保全に配慮した環境貢献型商品です。

OKIは、2024年度にトルコ、インドネシアで鉄道のモニタリング実証を行い、多くの知見やノウハウを得てきました。

2025年度にはこの現場の声を反映した海外版ゼロエネルギーIoTシリーズを市場投入し、本格的に海外販売を開始します。

また、2025年度内に経済産業省のグローバルサウス補助金を活用し、トルコで多発している「シンクホール」という巨大な陥没穴（右図参照）のモニタリング実証を行います。トルコ国内で社会問題となっている地面の大規模な陥没を予測・検知する新技術の開発をトルコ国鉄と共同で進め、さらなる社会課題の解決にも取り組んでいきます。

エッジデバイス ～ ゼロエネルギーIoTシリーズ ～



超音波水位計



高感度カメラ



トルコの穀倉地帯で増加する巨大な陥没穴